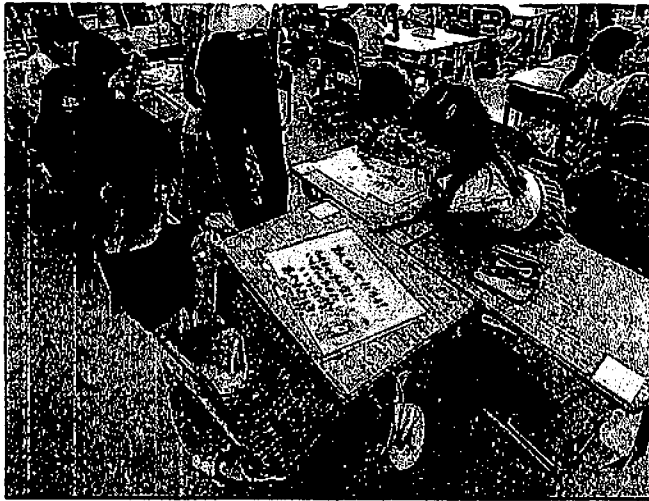


<酒々井小 研究主題>

他者と共によりよく生きることができる児童の育成

～考え、議論する道徳の時間を中心として～



1 研究主題

他者と共によりよく生きることができる児童の育成
～考え、議論する道德の時間を中心として～

2 主題設定の理由

(1) 社会的背景・教育課題より

児童を取り巻く状況は日々、変化している。少子高齢化、経済的格差、高度な情報化、グローバル社会への進展と、急激に変化する社会状況の中で子供たちに目を向けると、不登校、いじめ、いじめを原因とする自殺、少年犯罪などが、大きな社会問題となっている。人間関係の希薄さ、相手の気持ちを想像する力の不足、自他の生命を尊重する倫理観、社会性の欠如が一因であると言われて久しい。ひと昔前までは、主に家庭や地域社会で身に付けていた力である。しかし、現在は身に付けるのが難しい状況にある。

そのために本校では、道德の時間及び各教科において、話し合い活動や地域ボランティアの活用など、他者と共に協働的に学ぶ機会を多く取り入れたり、意図的に異学年集団をつくり、活動する時間を設定したりして、相手の気持ちを想像する力や人間関係づくりに取り組んでいる。

(2) 学習指導要領より

平成27年3月に、学校教育法施行規則及び小・中学校の学習指導要領の一部改正が行われ、従来の「道德の時間」が「特別の教科 道德」として新たに位置付けられた。これまでの「道德の時間」において、発達の段階を踏まえた内容や指導方法となっていなかったり、主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われていたりする例など、多くの課題が指摘されていた。このような状況を踏まえ、「特別な教科」化は、「多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道德としての問題を考え続ける姿勢こそ道德教育で養うべき基本的資質である」という認識に立ち、発達の段階に応じ、答えが一つではない道德的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考え、議論する道德』へと転換を図るものである」（平成28年12月中央教育審議会答申より）とされている。

また、平成32年度から完全実施される学習指導要領全体改訂の中では、社会で生きて働く知識や力を育むために、子供たちが「何を学ぶか」という学習内容の在り方に加えて、「どのように学ぶか」という学びの過程に着目してその質を高めることにより、学習内容を深く理解し、資質能力を身に付け生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにしていくことが重要であるとされている。その鍵となるのが「主体的・対話的で深い学び」をいかに実現するかという学習・指導改善の視点とされている。道德教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を育むため、答えが一つでない道德的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道德」を実現することが、「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考えられる。

(3) 学校教育目標より

学校教育目標

人間尊重の精神に徹し、豊かな人間性と健やかな心身をもつ、
実践力のある「酒々井小の子供」の育成

めざす児童像

しんせつな子 すなおな子 いっしょうけんめいがんばる子

学校教育目標である「人間尊重の精神に徹し」とは、自他ともに大切にす心や相手の人権を侵害したり、差別や偏見をしたりしない精神であるといえる。「豊かな人間性」とは、相手の気持ちを考える優しさや温かな心の他、物事に対して多面的・多角的に考えることができることだといえる。「健やかな心身」とは、善悪の正しい判断ができ、正しいことや自分のよいと思ったことを、最後まであきらめずに取り組むことができることであるといえる。そして、「実践力」とは、例えば困っている友達に対して優しく声をかけたり、本当に相手のしてほしいことを考えて行動したりという、実生活において具体的に行動に移すことができることや、自分の学級や学校をよりよくしていくために、主体的に話し合い、実践していくなどの自治的な活動ができる力であるといえる。

以上のことから、道徳的価値に迫るために、相手の意見を尊重し、多面的・多角的な視点で「考え・議論する」道徳の時間を中心として、「他者と共によりよく生きることができる」子供の育成を図ることは、学校教育目標の具現化につながると考えられる。

(4) 昨年度までの校内研究の成果と課題より

本校は、平成27・28年度において、文部科学省人権教育研究推進事業「人権教育研究指定校」として、「相手の立場に立って感じ・考え・行動し、自己有用感を高めることができる児童の育成～ふれあい活動と道徳の時間を中心をして～」を研究主題とし、研究を行ってきた。異学年交流であるふれあい活動と道徳の時間での学びを関連付けた「総合単元的道徳学習計画」を作成し、年間で育てたい児童像を明確にし、指導に当たってきた。その成果として、ふれあいタイムの中で、相手の立場に立った言動が自然にできるようになったり、良好な人間関係づくりを行ったりすることができたことが、児童の姿からもアンケート調査の結果からも明らかになった。また、ふれあい活動を通して、自分は周りから大切にされている、自分も誰かの役に立つことができるという自己有用感を高めることができた。課題として、道徳の時間で学んだことを実生活の中で生かすことができない児童がいることや、授業での話し合う力がまだ十分身につけていないことなどが挙げられた。

上記の理由により、本年度は、「他者と共によりよく生きることができる児童の育成～考え、議論する道徳の時間を中心をして～」という主題を設定した。

主題、副題については、以下のように捉えている。

「考える」とは・・・児童自らが問題意識をもち、自分のこととして考えをもつ。

「議論する」とは・・・様々に理由を考えたり、見方や立場を変えて考えたりする話し合いを通して、自分の考えを深める。

↓

自分のよさを発揮し、他者と対話したり協働したりしながら、よりよい人間関係を形成し、よりよい学校（社会）生活を実現させていくことのできる児童の育成をめざす。

3 研究仮説・手立ての実践例

仮説

道徳的価値に迫る話し合いを充実させる手立てを取り入れることで、道徳性が養われ、他者と共によりよく生きることができる子どもが育つだろう。

(1) 道徳的価値に迫る話し合いを充実させる手立て

①教材の選択、活用について

児童自身が問題意識を持ち、主体的に取り組むことができるよう、以下の視点で教材を選択したり、活用したりしていく。




- アンケート等を用いて児童の実態を把握し、教師の思いを重ね合わせた教材を選ぶ。
- 児童の興味や問題意識を持つことができるような身近な社会的課題を取り上げる。
- ねらいとする道徳的価値について多面的に考えることができる教材を活用する。

<実生活にありうる場面を例にし、児童に問題意識をもたせた授業例>

ワークシート

「あってもよいちがいがい」「あってはいけないちがいがい」
(名前)

○次の場面は「あってもよいちがいがい」と思いますが、「あってはいけないちがいがい」と思いませんか。

<p>【男子はみんな黒いランドセルだが、赤が赤きなけんたさんは黒いランドセルで登校した。】</p>  <p>あってもよいちがいがい () あってはいけないちがいがい () 理由</p>	<p>【5年生は3語の授業で授業を受けているが、教室に居っているけんたさんは3語にある5年生の教室で授業を受けられない。】</p>  <p>あってもよいちがいがい () あってはいけないちがいがい () 理由</p>
<p>【ふれあい習得で低学年は読み活動、高学年は読み活動をする。】</p>  <p>あってもよいちがいがい () あってはいけないちがいがい () 理由</p>	<p>○今日の学習を振り返って考えたことや思ったことを書きましょう。</p>

【第5学年

C-(13) 公正、公平、社会主義

「あってもよいちがいがい、

あってはいけないちがいがい」

(※ 資料自作)



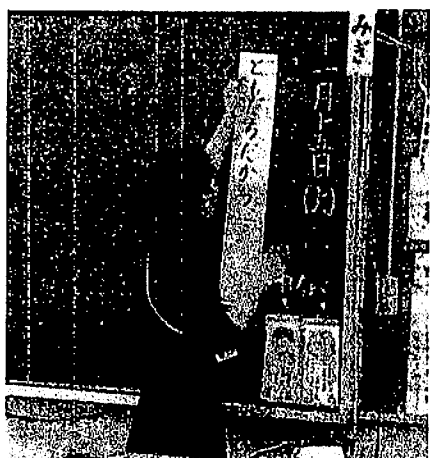
自分のこととして考え、意欲的に話し合いに取り組んでいる姿が見られた。

②指導方法の工夫について

<導入>

- ねらいとする価値に迫るための方向付けの工夫
 - 視覚に訴える教具の活用 (DVD, 場面絵, フラッシュカード, 写真等)
 - 実態調査の活用 (問題場面における意識調査の結果表示等)
 - 児童の作品や作文の活用, 生活体験の発表 等

<導入を工夫し、学習のめあてをもたせた授業例>



【第1学年

B-(9) 友情,信頼 「二わのことり」

(出典:文溪堂『1ねんせいのどうとく』)

学習のはじめと最後に「ともだちだから、□。」に入る言葉を考えさせた。

最初は、「ともだちだから、遊ぶ・やさしくする」という言葉であったが、教材を通して登場人物の気持ちの変化を考えさせていったところ「ともだちだから、大切に作る・心を傷つけない・気持ちを考えてあげる」という言葉に深めることができた。

<展開>

◎ねらいとする価値の追求・把握をさせる工夫（前段）

○問題解決的な学習や多様な体験活動を生かした学習等の工夫

「問題解決的な学習」

1つではない解決方法を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合う学習

※多面的・多角的に考えるとは、

- ・ある事象を様々な側面から考えること
- ・ある事象を異なった立場から考えること
- ・ある事象について違ったとらえ方をすること 等

「多様な体験活動を生かした学習」

日常の体験や特別活動等における多様な実践活動や体験活動の中で考えたことや感じたことを話し合いの中に生かすことで、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度を育んだり、役割演技や動作化など疑似体験的な表現活動を取り入れることで、想像するだけでなく、活動を通して道徳的価値の意義などについて考えを深めたりする学習

○個人・小グループ・全体での話し合いを生かした考えの練り合い

本校では、低中高学年別に話し合いの目指す姿を、次のように設定している。

<低学年>

- ・自分の考えをもち、発表できる。

<中学年>

- ・自分と友達の意見の同じところや違うところを意識して発表できる。

<高学年>

- ・友達の意見を受け、考えを分類したり、まとめたりしながら建設的に話し合える。

○価値に対する多様な考えに気付くための発問の工夫

- ・主人公の気持ちや考えの中身を問う共感的な発問「～はどんな気持ちや考えだろう。」
- ・行為や内容の意味を問う分析的な発問「～は何だろう・なぜだろう。」
- ・主人公に自己置換させて問う投影的な発問「～ならどうする(考える)か。」
- ・児童自身の考えや生き方を問う批判的な発問「～についてどう考えるか。」
- ・複数の解決策を考えるよう促す発問「他に考え(解決策)はないだろうか。」
- ・互いに納得できる解決策を考えるよう促す発問「互いに納得するにはどうすればよいだろう。」

等

○考えを整理し、可視化させるための思考ツールの活用

例えば以下のような教具を思考ツールの1つと捉え活用していく。

- ・心のものさし …一本の直線上に自分の立場を示す。A, Bのどちらかだけでなく、どちらかというA, ほとんどB等, 揺れ動く気持ち表現する。
- ・ハート図 …二枚の色の違う円に中心までの半径で切れ込みを入れ, 組み合わせたもの。登場人物や子供自身の心情を, 色の割合で表現する。
- ・心のバロメーター…ハートの形を半分に分け, 左右それぞれに0から100までの目盛りをつけたもの。二人の登場人物や二つの立場に対して, どちらの考えにどのくらい共感できるかを表現する。

その他, 自分の思考を整理していくために, ウェビングマップやマンダラート等の思考ツールを用いていく。

<思考ツール(教具)の例>

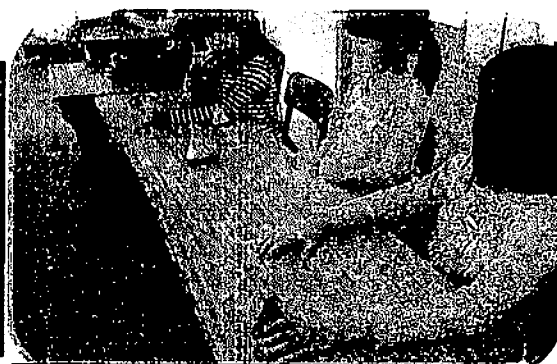


【心のバロメーター】

第5学年

「席をゆずらなかつた若者」

(※ 詳しくは資料編参照)



【心のカラーコーン】

第2学年 「ともだちやもんな, ぼくら」

(出典:東京書籍

「どうとく2 みんなたのしく」)

その他, 教具は「心のものさし」「ハート図」などを使用。

思考ツールは, KJ法, フローチャートなどを取り入れた。フローチャートを取り入れた実践例のまとめは, 資料編を参照。

◎ねらいとする価値の自覚をさせる工夫（後段）

○振り返りカードの活用

- ・今日の学びから自己を振り返り、見つめ直す。
- ・よりよい生き方や目標をもたせる。

○道徳的価値の意味や意義について捉え直す発問

<終末>

◎ねらいとする価値について整理、まとめをさせる工夫

○人権作文や「ほのぼのの木」の活用

○ゲストティーチャーの活用

○日記、手紙、詩、格言、ことわざ、新聞記事、家の人の手紙等の活用

○「わたしたちの道徳」の活用

○歌詞の意味を考えながらの合唱 等

<終末の工夫の例>



【教材の著者の方を
ゲストティーチャーにお迎えする】
第6学年「パラリンピアンの思い」
（自作教材。指導案は資料編参照）



【全員で輪になって
「世界に一つだけの花」を歌う】
第4学年「ばんざい、大きなはなまる」
（出典：学研『みんなのどうとく 4』）

③ 話し合いの技能向上（※具体的な手立てについては研推で検討中・2学期以降に実践していく）

話し合いを充実させるために、児童の話し合う技能そのものを育てていく視点が不可欠となる。6年間を通じて、また、年間を通じて段階的に指導に当たっていくことができるよう、話し合いの仕方について、系統性を持たせた指導計画やより具体的な手立てを講じていく必要がある。

例えば、以下の事柄について、今後検討していく。

- 話の聞き方、話し方
- ペアでの話し合いの仕方
- 小グループでの話し合いの仕方
- 全体での話し合いの仕方 等

4 実践例（第2学年）

指導者 清宮 道子

1 主題名 友だちとなかよくするために（内容項目番号 B-（9）友情，信頼）

2 教材名 「きれいな羽」 出典 学研「ゆたかな心」

3 教材について

本教材は、動物を登場人物にした読みやすいお話である。転校してきたくじゃくが、最初はきれいな羽を見せることで友達ができると考えていたが、しばらくたつと友達はどんどん離れていってしまう。そんなとき、遠足があり、きれいな羽が目印によいとくじゃくは列の先頭を任される。自慢の羽がぼろぼろになっても、後ろを振り返って皆を気にしながら頑張るくじゃくの姿を見て、皆がくじゃくを助けるようになり、くじゃくも皆も笑顔になる。

本時では、物語に沿ってくじゃくと学級の友達の心の変化を追うことによって、自分や周りの友達の互いの姿にしっかりと目を向け、仲よくすることの大切さや協力することのよさを実感させていきたい。そして、係などの学級活動やグループ活動、日頃の学校生活の様々な場面において、友達の頑張りに刺激されながら自分も頑張っていくことで、よりよい友達関係、よりよい学級の仲間作りがなされていくことをめざしたい。

4 道徳的価値に迫る話し合いを充実させるために

① 価値に迫る教材の活用

価値に迫っていくために、低学年の児童にも物語の内容を理解しやすい教材を選定した。2週間前には自分たちも校外学習へ行っており、場面の状況をとらえやすく、自分たちに重ねて考えやすいと思われる。導入では、事前にとったアンケートを活用して自分と周りの友達との関わり方について考えさせ、「誰とでももっと仲よくするために大切なことって何だろう。」と問いかけることで、本時のめあてをもたせる。

このように問題意識を持たせることにより、登場人物たちの心の変化を追った後に教材を通してわかったことを問うことで、本時のねらいである「相手をよさに気付くことの大切さ」や「相手を思いやる気持ち」、「相手のために頑張る気持ち」に気付かせていきたい。

② 役割を決めてのグループでの話し合い活動

本時では、教材を読んで話し合う際に、3～4人のグループで「くじゃく」「クラスの友達（くま・きつね）」をそれぞれ1，2人ずつ事前に分担しておき、発問ごとに分担の登場人物の気持ちをそれぞれ考える。考えたことは吹き出しのシートになっている発表ボードに書き、グループ内で互いに見せ合う形で発表し合う。このように分担することにより、全員が主体的に話し合いに参加できるようにするとともに、「くじゃく」「クラスの友達」の両者の思いを追っていくことで、多面的な見方ができるようにしていきたい。

③ 道徳的価値を自分たちの生活へ帰着させていくための工夫

終末において、『わたしだけが見つけた（知っている）、〇さんのすてきなところ』のカードを記入する。この活動は、学校全体で取り組んでいるほのぼのの葉の特別版と称して数日前から

提示し、普段あまり皆が気付いていない、その子のよさを探させておく。周りの友達についてあらためて考えさせることで、友達にはまだまだよいところがたくさんあることや自分自身が見方を変えていくことが大事であることに気付かせ、これからの生活の中で意識していけるようにしたい。

5 ねらい

転校してきたくじゃくとクラスの仲間たちの心の変化を追うことを通して、互いを認め合うことの大切さに気づき、友達と仲よく活動していこうとする心情を育てる。

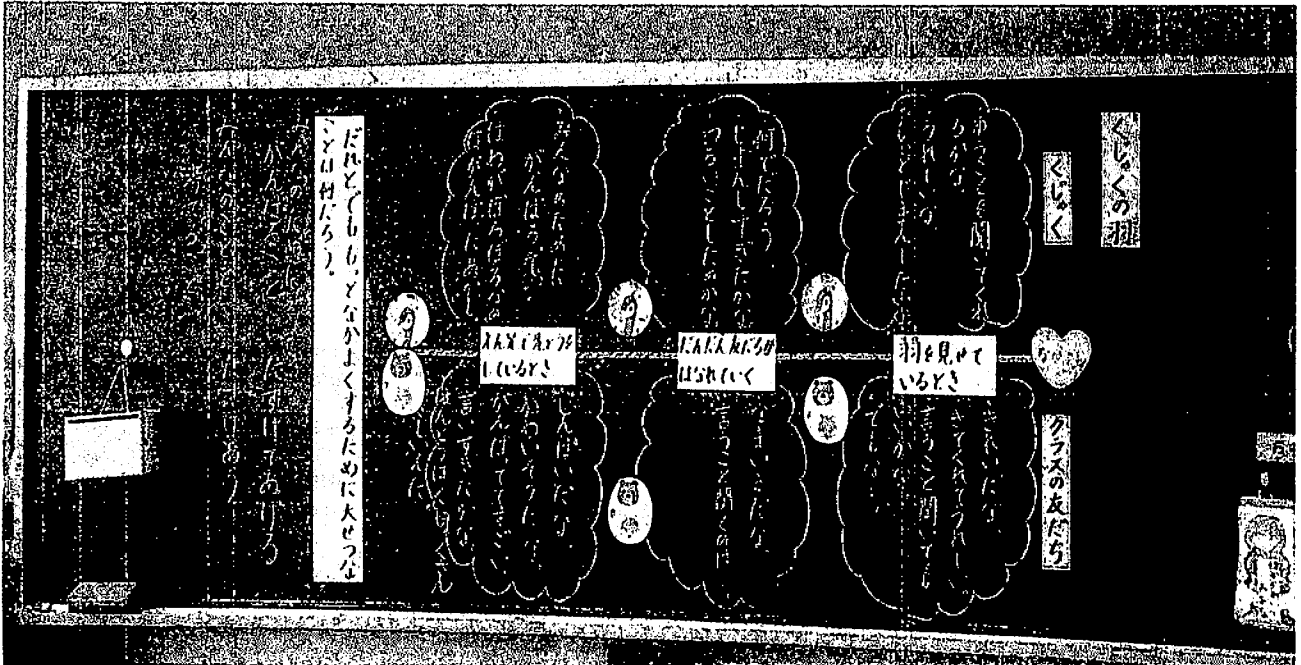
6 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問 ・予想される児童の反応	・支援および指導上の留意点 ☆評価（方法）	資料
導入	3	1 自分とクラスの友達との関わり方について考える。 ○誰とでも仲よくしていますか。 ・している。 ・したいけれど難しい。	・事前にアンケートを取ったものを提示し、仲よくしようと思っはいるがなかなかできていない自分たちの現状を押さえる。	事前アンケートの結果のグラフ
だれとでももっとなかよくするために大せつなことは何だろう。				
展開	前 段	2 教材を読んで話し合う。 7 ○転校してきたくじゃくが「きれいな羽を見せてあげる。」と言っているとき、それぞれどんな気持ちになりましたか。 <くじゃく> ・すごいだろ。 ・喜んでくれてこれで友達になってくれる。 <クラスの友達> ・きれいだな。 ・すごいな。でも・・・。	・「転校生のくじゃく」「クラスの友達」それぞれの立場をおさえる。 ・机の形を3, 4人のグループにし、登場人物の「くじゃく」と「くま、きつね」の2つにあらかじめ分けておく。それぞれの場面において分かれて気持ちを考えさせることを確認してから話し合いに取り組みさせる。 ・資料は、場面絵やペープサートを使って場面ごとに提示する。 ・2人組で話し合い、吹き出しに考えたことを書く。「くじゃく」「クラスの友達」のそれぞれが書いたら、グループ内で互いに見せ合う。 ・グループでの発表の後、全体で発表させ、板書にまとめ、考えを共有していく。 ・黒板の横中央に「なかよしライン」	場面絵 ペープサート 登場人物の顔 発表ボード（吹き出しのシート）
		7 ○だんだん友達が離れていってしまったとき、それぞれどんな気持ちになりましたか。 <くじゃく> ・何でだろう。 ・仲よくしたいのに。 <クラスの友達>		

	<p>・何だか威張ってていやだな。 ・友達になりづらいな。</p> <p>7 ○くじゃくが羽をぼろぼろにしなが ら一生懸命頑張っているとき、 それぞれどんな気持ちになりましたか。</p> <p><くじゃく> ・みんなのために頑張ろう。 ・これで仲よくなれるかな。</p> <p><クラスの友達> ・くじゃくさん、みんなのために 頑張っているんだ。 ・手伝ってあげようかな。</p>	<p>を引き、ラインに近づくほど仲が深 まっているとして、発問ごとに今の それぞれの気持ちはどのあたりかを 考えさせて登場人物の顔の挿絵を張 っていく。板書を工夫することで、 視覚でも気持ちの変容がとらえられ るようにする。</p>		
10	<p>◎この遠足でそれぞれどんなこと がわかったでしょうか。</p> <p><くじゃく> ・みんなのために頑張ってよかつ たな。 ・友達になれてよかった。 ・友達のことを考えることって大 事だな。</p> <p><クラスの友達> ・くじゃくさん、本当は優しい人 だったんだな。 ・嫌だと決めつけていて悪かつた な。 ・仲よくできるように自分も頑張 ればよかったな。</p>	<p>・これまでのグループ活動ではなく、 個々にワークシートに書かせる。</p> <p>・くじゃくの変容からは「友達のこと を思いやること」「友達のために頑 張ること」に気付かせていき、クラ スの友達の変容からは「友達の頑張 りを認め合うこと」に気付かせてい く。</p> <p>☆互いに頑張ること、認め合う、助け 合うことの大切さに気付くことがで きたか。</p> <p>(ワークシート・発表)</p>	ワークシ ート	
後 段	3	<p>3 これまでの自分を振り返る。 ○友達のよいところを見つけてほ めたり、クラスみんなのた めに頑張ったりしているでし ょうか。</p> <p>・帰りの会の「今日のほのぼの見 つけ」で伝えるようにしている。 ・係の仕事を精一杯頑張るよう にしている。</p>	<p>・友達のよさを広めることや、クラス や友達のために頑張ることを意識し ていくことが、誰とでも仲よくす ることにつながることに気付かせる。</p>	

終末	8	4 『わたしだけが見つけた（知っている）、○さんのすてきなところ』のカードを書く。	・事前に書いたものも含め、カードの中から数枚を取り上げ、友達の新たな一面を紹介することで、日常生活に生かそうとする気持ちを持たせる。	カード(ほのぼのの薬)
----	---	---	--	-------------

7 板書

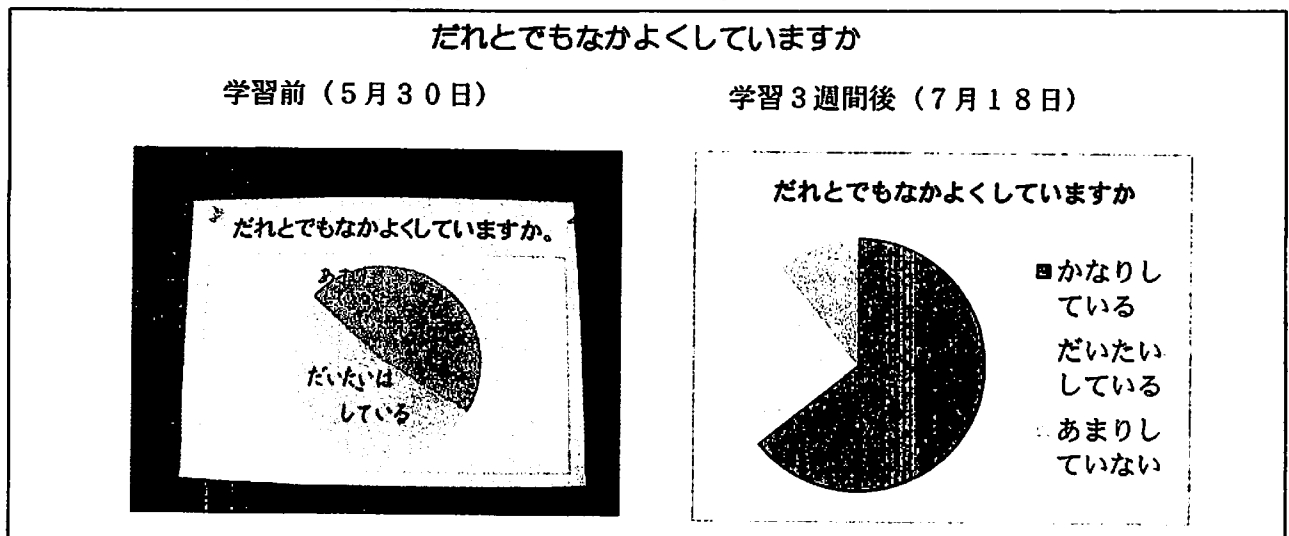


8 実際の授業の様子と成果

(1) 実態調査を活用した課題設定

導入でアンケートを提示して「だれとでもなかよくするためにはどうしたらよいだろうか。」と、課題を持たせることにより、自分たちの今の生活をさらによくしようと、自分のこととして考えることができた。

学習後にとったアンケートと比較したものが以下の通りである。学習後、道徳的価値に対する児童の言葉がより深いものへ変容していることがわかる。



だれとでもなかよくするために、大じなことはどんなことですか（28名中）。

<学習前> ※ 主な意見

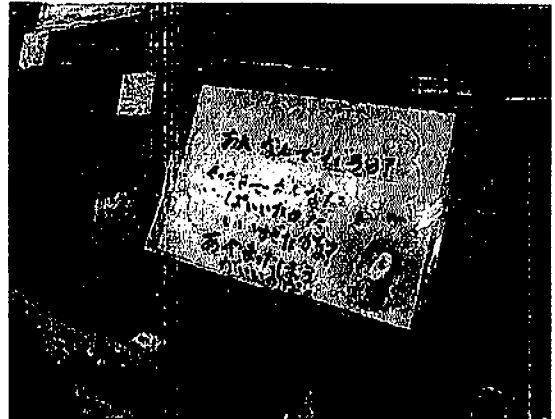
嫌な言葉を言わない	5
いじわるしない	3
力を合わせる	3
思いやり	3
大切にする	3
声をかける	2
みんなの気持ちがわかる	1

<学習3週間後>

嫌な言葉を使わない	7	
助け合う	7	
親切にする	3	
大切にする	2	友達のことを考える 1
思いやり	1	自分以外の考えも 1
みんなで考える	1	受け入れる 1
いいね、と言う	1	その他 4

(2) 話し合い活動の工夫

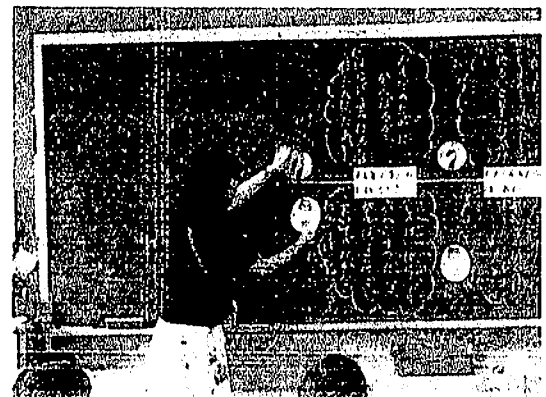
「くじゃく」「クラスの友達」のそれぞれの気持ちを、分担を決めて発問ごとに考えさせ、発表ボードに書いたものを見せ合った。2人組での意見の練り合いを上手にすることができており、お互いがどのようなことを考えたのか、興味をもって話し合っていた。全員が話し合いに参加することができ、その後の全体での発表でも進んで発言をしていた。



グループでの意見の交流は、発問ごとに3回行った（主発問は個々でのワークシート）が、そのたびに発表ボードを消して書くことになるため、今後、評価化を考えたとき、児童の意見が消えてしまうのはもったいないのではと参観者より意見があった。全体での話し合いの際に取り上げる意見は机間巡視でチェックしていたものの、個々の意見の変容については見切れていないので、さらなる工夫が必要である。

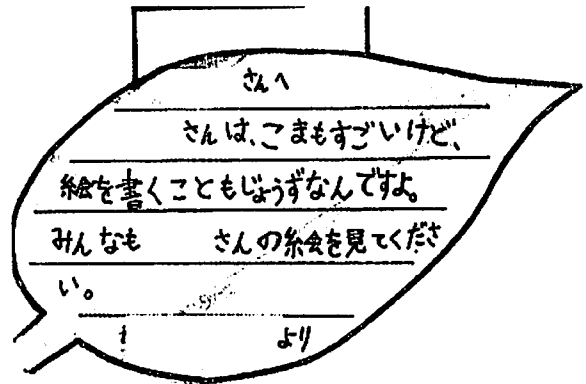
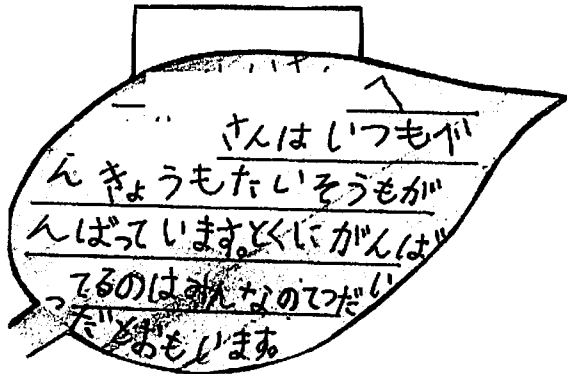


また、板書の中央に「なかよしライン」を引き、それぞれの気持ちを上下に分けて書き、気持ちがどれくらい近づいたかを挿絵の位置で表した。これにより、両者の思いを比較したり、気持ちの変容を視覚で追ったりすることができ、効果的であった。



(3) 自分たちの生活に帰着していく工夫

いつも書いている「ほのぼのの葉」の色を変えた虹色の葉が児童の関心を高めていた。一方で、意欲的に書いてはいたものの、ねらいであった「友達の新たな一面を探し、見方を変えていく。」ことは2年生には難しかったようで、期待する内容にはなかなか届かなかった。

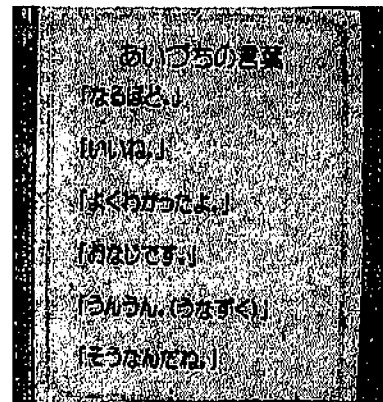


<主発問における児童のワークシート>

5 研究全体を通してのこれまでの成果と今後の課題

- ◎ 2年間の研究により、成果として次のことがあげられる。
 - ・学校全体の教師の指導力（教材選定の視点、ねらいを明確にした学習の組み立て方、思考ツールの取り入れ方 等）が大きく向上した。
 - ・今年度7月に取ったアンケート（※ 資料編参照）より、道徳の時間を「とても好き」「好き」と答えている児童が多く、指導方法の工夫により意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。
 - ・意識調査の結果や、ふれあい活動等における姿から、昨年度までの実践を通して、自己有用感や自己肯定感、相手を思いやる人権意識が高まっていると言える。

- △ 7月に学校全体で取った実態調査の結果を見ても、児童自らが話合いをしていく力がまだ十分身につけていないことがわかるので、まずは話型を示し、道徳の時間だけでなく他教科の中でも話合い活動の仕方に慣れさせていきたい。低学年は、短い言葉でまとめた簡単な掲示物に加え、机の上に貼るカードなど、高学年は、話し合う話題や話合いのめあてに応じて何パターンかの話型カードを作成していく。



2年生の授業では、相手の考えに共感する言葉を
書いたカードを机の上に貼って使用。

- △ 全学年共通のふりかえりカードを使っているが、高学年は授業時間における心の変容を見るためにも、授業中に思ったことを自由に書ける道徳ノートを、2学期以降検討していきたい。

<酒々井小 研究主題>

他者と共によりよく生きることができる児童の育成

～考え、議論する道徳の時間を中心として～

資料編



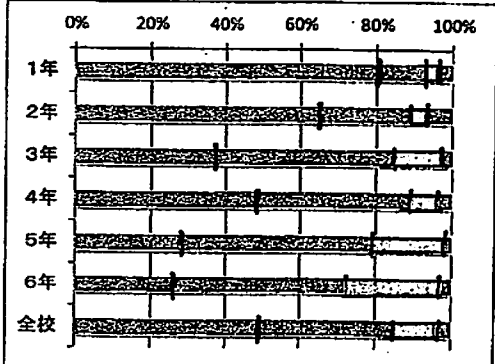
道徳アンケート 7月集計結果

H29.7 酒々井小学校

1 道徳の授業が好きですか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	79%	12%	3%	4%
2年	65%	24%	4%	7%
3年	37%	47%	12%	3%
4年	48%	41%	7%	4%
5年	27%	50%	18%	2%
6年	26%	46%	25%	3%
全校	48%	35%	11%	4%

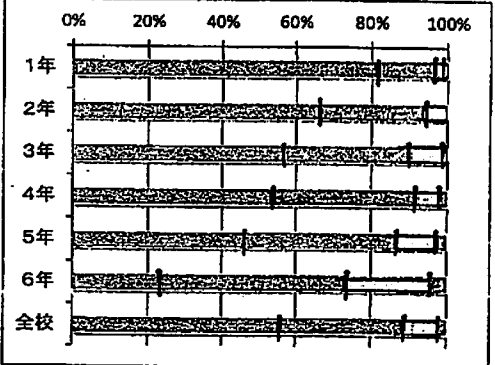
道徳の授業への興味・関心に関わる項目である。全体で、83%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。高学年になるにつれて、「あまり思わない」と答える児童が増える傾向がある。児童の興味や問題意識をもつことのできるような身近な社会的課題を取り入れ、本音で語り合える授業を実施していきたい。



2 自分のよいところをもっとよくしようとしていますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	78%	15%	2%	1%
2年	65%	27%	6%	0%
3年	57%	33%	9%	1%
4年	52%	37%	6%	2%
5年	45%	39%	10%	3%
6年	22%	47%	21%	4%
全校	54%	32%	9%	2%

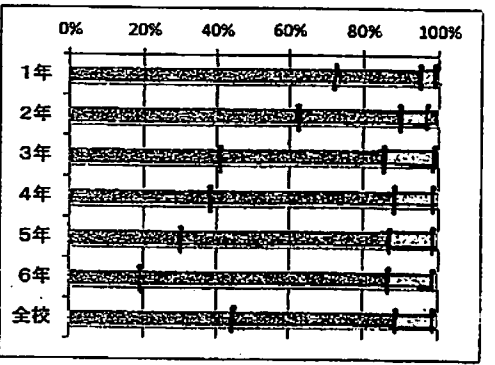
A「個性の伸長」に関わる項目である。全体の86%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。互いの頑張りやよさを伝え合う「ほのぼのタイム」や「ほのぼのの祭」を全クラスで実施していることや先生方の肯定的な関わりが高い数値につながっていると考えられる。今後も自分のよさを自覚し、伸ばしていくことへの意欲を高める授業を実施していきたい。



3 相手の気持ちを考えて、話したり行動したりしていますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	72%	22%	4%	1%
2年	61%	27%	7%	3%
3年	40%	44%	13%	1%
4年	38%	50%	10%	1%
5年	30%	57%	12%	1%
6年	19%	67%	12%	1%
全校	44%	44%	10%	1%

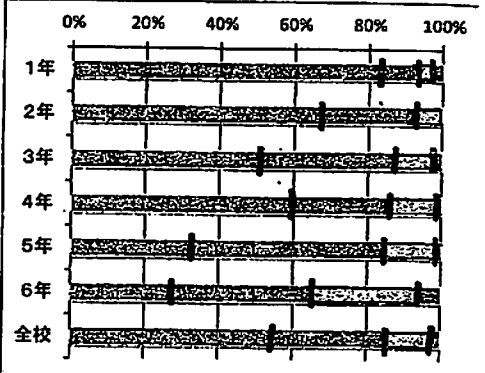
B「親切、思いやり」に関わる項目である。全体の88%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。昨年度までの人権教育の研究の成果が表れていると考えられる。今後も総合単元的道徳学習計画に沿って、道徳の時間とふれあい活動や教科・行事を関連づけた指導のサイクルを意図して実践していくことで、日々の行動化へとつなげていきたい。



4 だれに対しても好ききらいなく、同じように接していますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	81%	11%	3%	3%
2年	66%	25%	7%	0%
3年	51%	36%	11%	2%
4年	57%	25%	13%	1%
5年	31%	50%	14%	1%
6年	27%	38%	29%	6%
全校	53%	30%	13%	2%

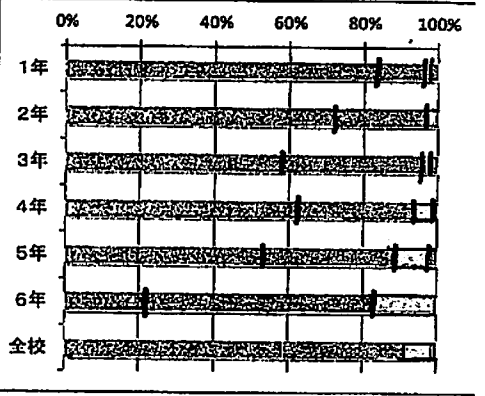
C「公正、公平、社会正義」に関わる項目である。全体の83%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。人によって態度を変えたり、好き嫌いをしたりすることは、差別や偏見につながる行為である。6年生では、35%の児童が「あまり思わない」「思わない」と回答している。自分の性格や趣味と合う・合わないという違いは認めながらも、偏見や差別につながらないような授業を実践していきたい。



5 クラスや学校のために、友達と力を合わせて活動していますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	82%	13%	1%	2%
2年	71%	24%	3%	0%
3年	58%	38%	2%	2%
4年	62%	31%	5%	1%
5年	52%	35%	9%	2%
6年	21%	60%	17%	0%
全校	58%	33%	7%	1%

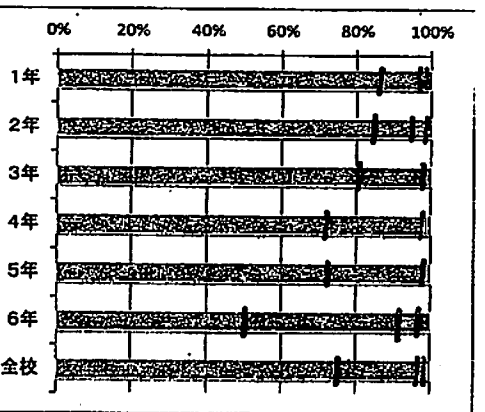
B「友情、信頼」とC「よりよい学校生活、集団生活の充実」に関わる項目である。全体の91%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答し、全校児童の9割以上が肯定的な評価をしている。低、中学年では、学級での係活動や当番活動などで、友達と力を合わせて活動していることが、クラスのためにになっているという意図に結びついている結果だと感じられる。高学年においても、委員会活動や朝のボランティア活動などが、学校のためにになっているという実感をもたせ、自己有用感をさらに高めていきたい。



6 自分や他人、生命あるものの命を大切にしていますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	85%	10%	1%	2%
2年	82%	10%	4%	1%
3年	79%	17%	2%	0%
4年	71%	25%	1%	1%
5年	71%	25%	2%	0%
6年	48%	40%	5%	3%
全校	73%	21%	2%	1%

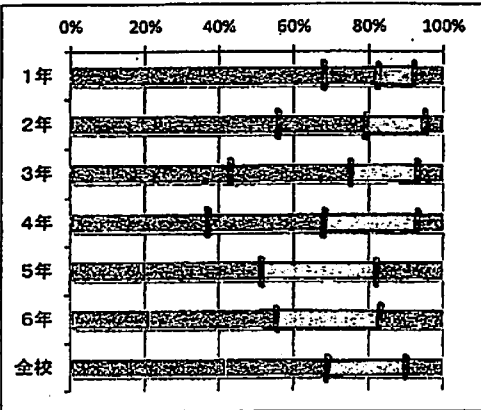
D「生命の尊さ」に関わる項目である。全体の94%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答し、どの学年も高い数値を示している。日頃から、登下校や放課後の遊び方などの安全指導を徹底していることや昼の校内放送での「バースデーコーナー」において、「あなたの命は大切な命。自分と同じように相手の命も大切にできる人になりたいですね。」等のメッセージを送り続けていることなどが成果につながっていると考えられる。今後も、道徳の授業を通じて、発達に段階に応じ、生命の偶然性や運命性、有限性等について、深く考えさせ、さらに生命の尊さを感じられるようにしていきたい。



7 道徳の授業で、自分の考えを話したり発表したりすることができますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	68%	14%	10%	8%
2年	53%	22%	15%	5%
3年	42%	32%	17%	7%
4年	37%	31%	24%	7%
5年	20%	31%	30%	18%
6年	21%	34%	27%	17%
全校	41%	27%	20%	10%

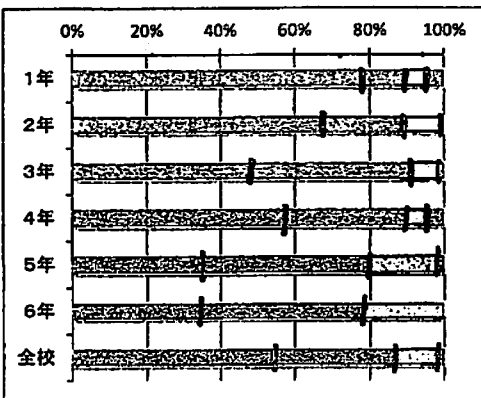
仮説に関わる項目である。全体の68%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答し、全体の30%が「あまり思わない」「思わない」と回答している。特に高学年においては、約半数の児童が自分の考えを積極的に話すことに抵抗を感じていることが分かる。①何でも話せる学級の雰囲気づくり、②ペアや小グループでの話合いの時間の確保、③ペアや小グループにおける話合いの仕方の提示などを手立てとして、子供たちが自分の考えを話しやすくなる取り組みをしていきたい。



8 道徳の授業で、友達の意見や考えを聞いて、自分なりの考えをもつことができますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	77%	12%	5%	5%
2年	65%	21%	10%	1%
3年	48%	42%	8%	1%
4年	57%	32%	5%	5%
5年	35%	44%	18%	2%
6年	34%	43%	21%	0%
全校	53%	32%	11%	2%

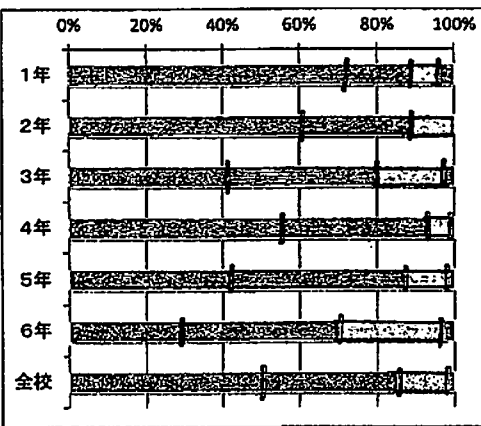
仮説に関わる項目である。全体の85%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。高学年児童も8割の児童が肯定的な回答をしており、「話す」こと比べ、よくできていると判断できる。友達の話をよく聞き、自分の考えに反映させていこうという態度は、よく身に付いてきていると見える。今後、さらに充実させていくために、反応の仕方を提示し、身に付けさせたり、友達の考えと自分の考えを比較したり、様々な考えを分類したりしながら聞く力を身に付けさせていきたい。



9 道徳の授業で学んだことを、生活にいかすことができますか。

	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1年	71%	16%	7%	4%
2年	60%	28%	11%	0%
3年	41%	39%	17%	3%
4年	55%	37%	6%	1%
5年	42%	45%	11%	2%
6年	28%	40%	26%	3%
全校	50%	34%	13%	2%

道徳的実践力に関わる項目である。全体の84%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。①道徳の授業の導入や終末において、日々の生活と関わらせた話題を提示していることや、②毎時間「振り返りシート」を用いて、その道徳的価値についての自身の目撃の様子を自己評価し、学んだことや今後生かしていきたいことなどを記入していること、③学年掲示板を使い、道徳の授業を振り返ることができる掲示物を作成していることなどが、成果につながっていると考えられる。今後、行動チェック表などを活用し、授業後に継続して自分の行為に生かせるような手立ても検討していきたい。

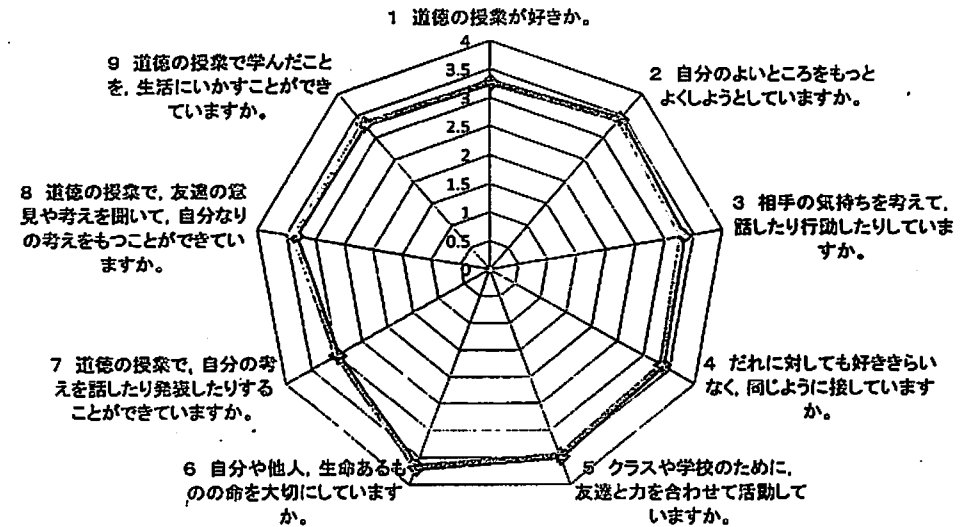


レーダーチャート図

【全校児童】

	平均値
1 道徳の授業が好きか。	3.27
2 自分のよいところをもっとよくしようとしていますか。	3.41
3 相手の気持ちを考えて、話したり行動したりしていますか。	3.3
4 だれに対しても好ききらいなく、同じように接していますか。	3.35
5 クラスや学校のために、友達と力を合わせて活動していますか。	3.48
6 自分や他人、生命あるものの命を大切にしていますか。	3.68
7 道徳の授業で、自分の考えを話したり発表したりすることができますか。	3
8 道徳の授業で、友達の意見や考えを聞いて、自分なりの考えをもつことができますか。	3.37
9 道徳の授業で学んだことを、生活にいかすことができますか。	3.31

4 とてもそう思う 3 そう思う 2 あまり思わない 1 思わない



最高値を4、最低値を1とし、それぞれの項目における回答の平均値を計算し、レーダーチャートにして表したものが、この図である。最も平均値が高かったのが、項目6「自分や他人、生命あるものの命を大切にしているか」であり、その次に項目5「クラスや学校のために、友達と力を合わせて活動しているか」、項目2「自分のよいところをもっとよくしようとしているか」と続く。昨年までの人権教育の研究の成果として、生命を尊重する態度や友達と協力してクラスや学校のために活動する意欲、自分のよさを認めさらに伸ばしていこうとする姿勢が身に付いてきていると言える。その他の「相手の気持ちを考えて話したり行動したりする」「だれに対しても好ききらいなく同じように接する」という行動面についても、3.3以上と高い数値を示している。これらについては、今後も道徳の時間を中心とし、さらに高めていきたい。

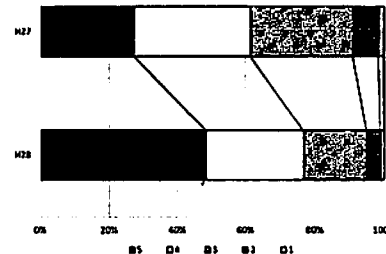
逆に最も低い数値を示したのが、項目7「道徳の授業で、自分の考えを話したり発表したりすることができますか」である。レーダーチャート図を見ても、1つだけへこんでいることが分かり、この点が本校児童の課題であるといえる。2学期以降は、特にここに焦点をあて、指導力の向上を圖っていく。具体的には、話の仕方や聞き方、小グループや全体での話合いの仕方の型を作成し、児童自らが自分の考えを積極的に伝えやすくなるような工夫を講じていきたい。

平成27年度・28年度 人権に関するアンケート結果

5:とても思っている 4:思っている 3:時々思う 2:あまり思っていない 1:思っていない

①自分がされていやなことは、人にもしなないようにしていますか。

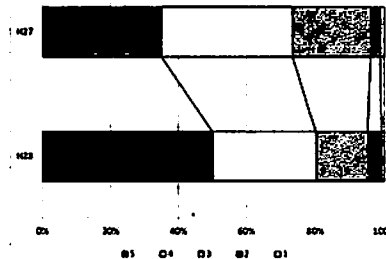
	5	4	3	2	1
H27	27%	34%	29%	7%	2%
H28	48%	28%	18%	4%	1%



・マイナス評価が、9%から5%に減っている。割合としては小さいが、全校で22名減という計算になると考えると、取り組みの成果を感じる。
 ・同様に、プラス評価が15%増えている。これも児童数にするとおよそ90人が増えたという計算になる。76%の児童がプラスの評価をしており、全体的に、相手の気持ちを考えた行動が増えていると見えよう。

③相手の気持ちを考えて話すようにしていますか。

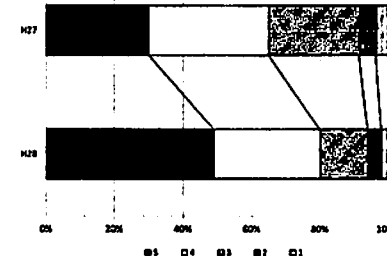
	5	4	3	2	1
H27	35%	38%	23%	3%	1%
H28	50%	30%	15%	4%	1%



・プラス評価が7%増え、80%の児童が相手の気持ちを考えて話すようにしていると答えている。とても考えて話しているという児童が16%も増加していることから、友だちを思いやる心がさらに育ってきていると捉えることができる。
 ・学年別に見ると、低学年、中学年は前年度同様に高い結果であったが、高学年は、63%から80%と大きく増えており、リーダーとして取り組むふれあい活動の成果が表れてきていると考えられる。

②人がいやがる言葉を使わないようにしていますか。

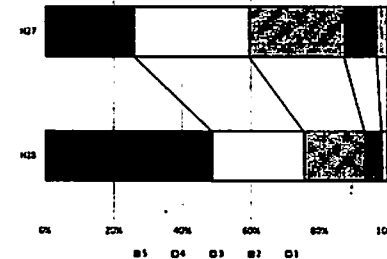
	5	4	3	2	1
H27	30%	35%	27%	5%	4%
H28	49%	31%	14%	4%	2%



・プラスの評価が15%増え、全体で80%の児童が言葉遣いに気をつけていると答えている。
 ・学年別に見ても、すべての学年でプラス評価増えていることから、全体的に相手を思いやる気持ちが、言葉にも表れてきていると考えられる。

④よいクラスになるように考えて行動していますか。

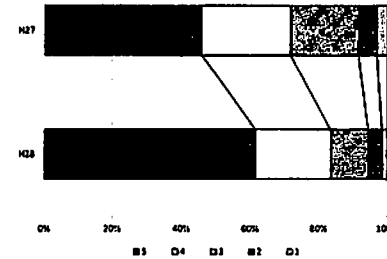
	5	4	3	2	1
H27	26%	33%	28%	9%	3%
H28	49%	27%	18%	5%	2%



・プラス評価が17%増えた。中でも、とても考えて行動していると答えた児童が23%も増えている。学級での係や当番活動の活性化やほのぼのの木の積極的な活用、クラスの経験を深めるような活動等を通し、学級集団の質を向上させることができた結果であると考えられる。

⑤友達と仲よくなろうと、進んで声をかけていますか。

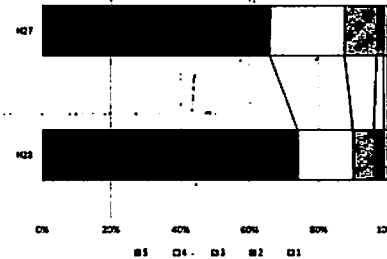
	5	4	3	2	1
H27	46%	26%	20%	5%	3%
H28	62%	22%	11%	4%	2%



・プラス評価が12%増え、84%の児童が進んで声をかけていると答えている。
 ・昨年は学年が上がるにつれて、評価が下がっており、交友関係が固定化していく傾向が見られていたのだが、今年度は、高学年も80%の児童がプラスの評価をしており、進んで友だちとコミュニケーションを取ろうとする児童が増えてきたことが伺える。

⑥人といっしょに活動するのは楽しいですか。

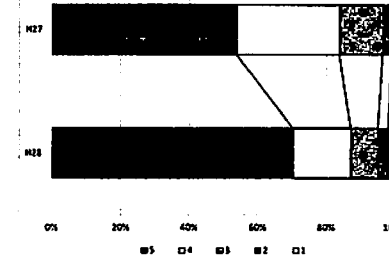
	5	4	3	2	1
H27	66%	22%	9%	2%	1%
H28	74%	16%	6%	3%	1%



・前年度同様よい結果が出ている。さらに2%ふえ90%の児童がプラス評価をしており「仲良く楽しく活動できる児童が多い」という傾向を維持できている。
 ・中学年で、マイナス評価が4%から8%へ増加していたが、今まではお世話をしてもらっていた立場から、少しずつお世話をする立場へと変化し進んで周囲と関わることの大切さや楽しさについて気づき始めた結果ととらえている。

⑦友達と仲よく活動していますか。

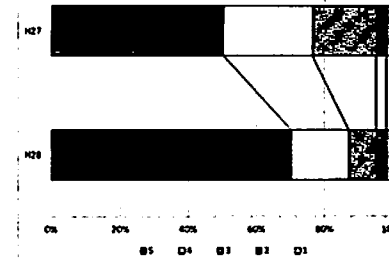
	5	4	3	2	1
H27	54%	30%	13%	3%	1%
H28	71%	17%	8%	3%	2%



・プラス評価が4%増え、88%と高い評価であった。とても仲良く活動している評価が17%も増えており、より良い人間関係が構築されていると捉えられる。コミュニケーションが良好になっていることは嬉しいことである。
 ・マイナス評価が1%増えていた。児童の様子をさらに注意深く観察し、孤立化やいじめがないか注視していきたい。

⑧遊んだり、話したりできる他の学年の友達はいますか。

	5	4	3	2	1
H27	50%	26%	19%	3%	2%
H28	71%	17%	8%	3%	2%

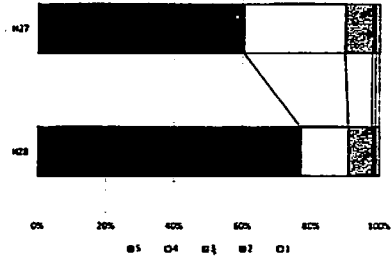


・プラス評価が76%から88%となり、12%も増えている。多くの児童が人間関係を広げたという結果になる。ふれあい活動の成果が、数値に表れているのではないかと考えられる。
 ・昨年は高学年のプラス評価が落ち込んでいたが、今年度は88%がプラス評価をしている。高学年児童が主体的にふれあい活動に取り組んでいることで、異学年間の交流が深まっている。休み時間の様子を見ても、様々な学年が入り交じって遊ぶ姿が増えてきた。

3

⑨あなたの友達には、よいところやがんばっていることがありますか。

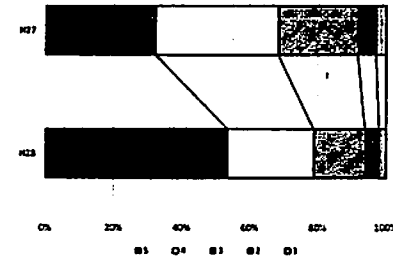
	5	4	3	2	1
H27	60%	30%	8%	1%	1%
H28	77%	14%	7%	1%	1%



・前年度同様、9割の児童がプラス回答しているがともであると答えている児童が17%も増加した。友達の良さや努力を認めることができる傾向にあると見える。「ほのぼの木」や掃りの会、ふれあい清掃時などで互いの良さや頑張りを認め合う活動が好影響していると考えられる。

⑩あなたには、よいところやがんばっていることがありますか

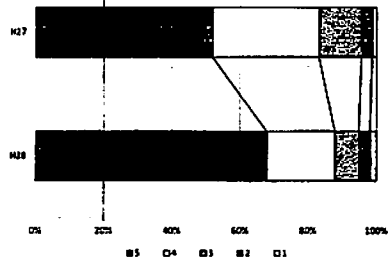
	5	4	3	2	1
H27	32%	36%	23%	5%	3%
H28	53%	25%	15%	4%	2%



・プラス評価が68%から78%と10%増えており、自分自信を好意的にとらえることができる児童が増えてきた。昨年度は友達存在の存在や良さは認められるが、自分に自信がもてないことが課題としてあげられていた。ふれあい活動の中や振り返りの時間で互に認めよう意図して取り組んだり、学級で一人一人を褒める活動に取り組んだりしたことにより、自分の良さや頑張りを自分自身が認められるようになったと考えられる。
 ・昨年度はふれあい活動をリードする高学年のプラス評価が、61%とあまり高くなかった。しかし、今年度は77%と大きく改善されている。ふれあい活動で意図的に高学年児童を認めたことがこの結果に結びついていると考えられる。

⑪友達や先生、家族にほめられてうれしかったことがありますか。

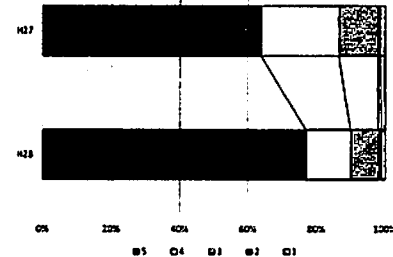
	5	4	3	2	1
H27	52%	31%	12%	3%	1%
H28	68%	20%	7%	3%	2%



・前年度83%だったプラス評価が88%と増加した。職員間でほめるということはどのようなことなのかを共通理解し、効果的にほめることを意識したことがプラス評価につながったのではないだろうか。
 ・学校だけでなく、家庭にもほめる取り組みを広げていくことで、マイナス評価を減らすことができるのではないかと考える。

⑫友達の良いところがわかるようになりたいですか。

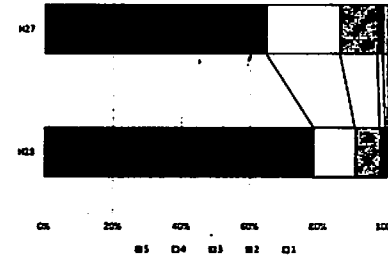
	5	4	3	2	1
H27	64%	23%	11%	1%	1%
H28	77%	13%	8%	1%	1%



・90%の児童がプラス評価をしており多くの児童が、人権意識を高めるための向上心を持ち合わせていることがわかる。
 ・マイナス評価児童が、2%いる。互いにわかり合えることの心地よさが感じられるような取り組みを継続して行っていきたい。

⑬友達や家族の役に立ちたいですか。

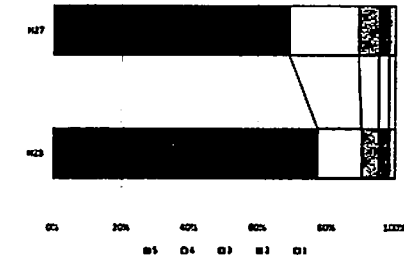
	5	4	3	2	1
H27	65%	21%	11%	2%	1%
H28	78%	12%	7%	2%	1%



・前年度と同様に高いプラス評価が得られた。多くの児童が自己有用感を高める意欲をもっていることがわかる。

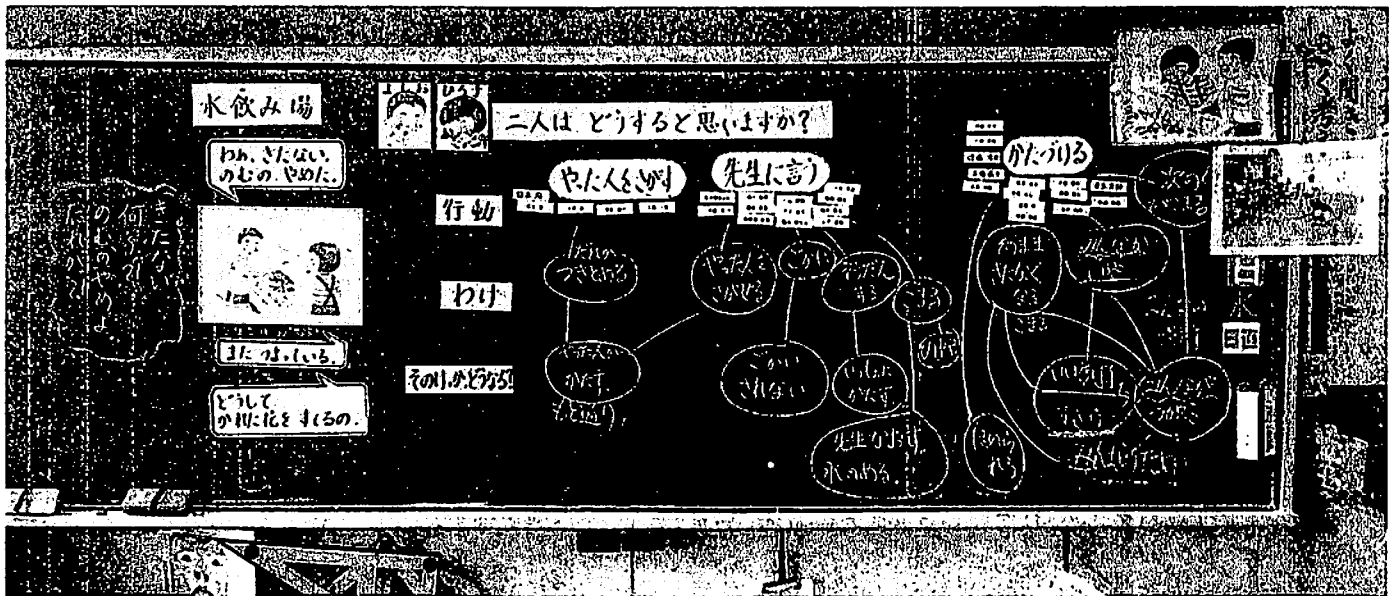
⑭大人になったら挑戦してみたいことや夢はありますか。

	5	4	3	2	1
H27	69%	20%	6%	3%	2%
H28	78%	13%	5%	3%	2%

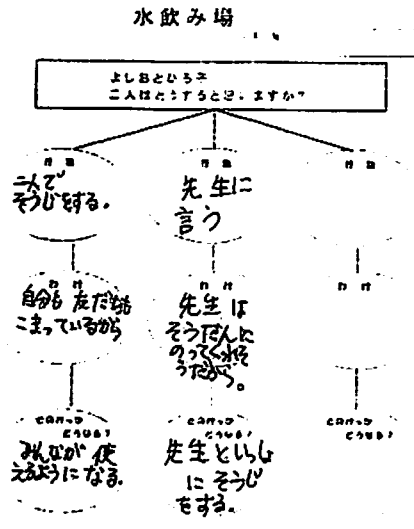
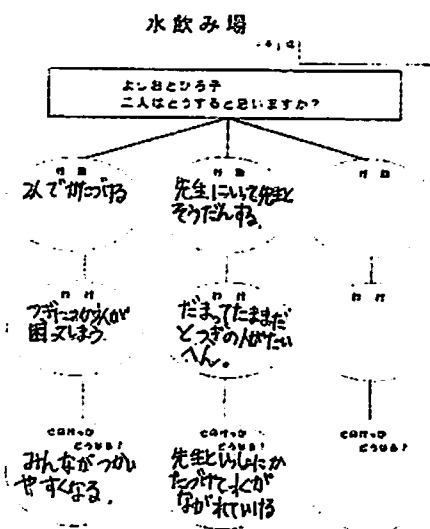


・多くの児童が「ある」と回答している。自己有用感の高まりとともに、何事にも進んで取り組んでみたいという意欲の高まりが結果として表れているのではないかと考える。

- 1 主題名 みんなで使う物 (内容項目番号C-(11) 規則の尊重)
- 2 資料名 「水飲み場」 出典 文溪堂『3年生の道徳』
- 3 板書



4 ワークシート



ふり返しカード

名田 ()

☆あなたは、みんなで使う場所や物をみんなが大切に
よく使えるように使っていますか。

1. 遊ぶこと
2. 水をこぼすこと
3. 水を飲むこと
4. 水をこぼすこと
5. 水を飲むこと

今日の学習をして、わかったことや考えたことを書
きましょう。

ぼくは、みんなが使う場所や物を大切に
使っています。水をこぼさないで、みんなが
よく使えるように使っています。

次の授業で、みんなが使う場所や物を大切に
使っています。

ふり返しカード

名田 ()

☆あなたは、みんなで使う場所や物をみんなが大切に
よく使えるように使っていますか。

1. 遊ぶこと
2. 水をこぼすこと
3. 水を飲むこと
4. 水をこぼすこと
5. 水を飲むこと

今日の学習をして、わかったことや考えたことを書
きましょう。

みんなが使う場所や物を大切に
使っています。水をこぼさないで、みんなが
よく使えるように使っています。

次の授業で、みんなが使う場所や物を大切に
使っています。

5 仮説に対する成果 (○) と課題 (●)

○児童にとって身近な教材を活用したことで、問題意識をもち、主体的に考えることができた。

○思考ツールである「フローチャート」を活用し、「行動」「理由」「結果」の思考の流れを書かせた。普段ワークシートに書くことをためらいがちな児童も多様な考えを書くことができた。また、違う立場の意見も書かせることで意見を整理しやすくなった。

○ペアで自分の考えを相手に伝える意見交換を行うことで全員が自分の考えを伝えることができた。その後の全体での話し合いでは、登場人物の行動への多様な理由づけを行うことができた。

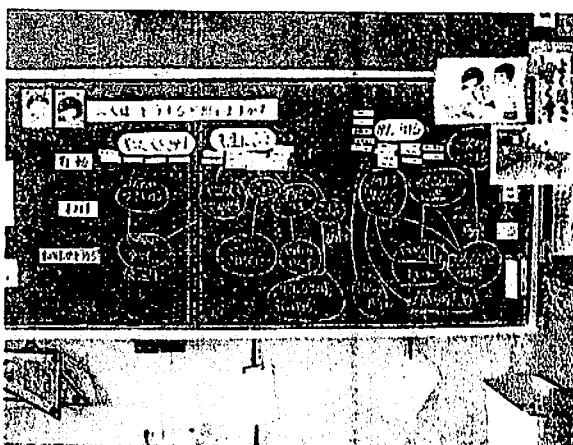
○全体での話し合いでは、児童の意見を板書で整理することで、多角的な思考を促し、思考の流れや行動による周囲への影響などを可視化することができた。フローチャートのような思考ツールに慣れることで日常生活においての問題解決に生かし、道徳的判断力を培うことができると考える。

○主発問で「自分だったらどうするか」を問い意志決定する場を設けた。解決策の吟味で役割演技を行うことで具体的な行動を疑似体験することができた。また、役割演技後後の二度目の意志決定では、自分なりの解決方法を多角的に考え判断することができた。どれがいいのか悪いかより、いろいろな解決策があって周りの友達の意見を聞いて自分の考えが分かったという問題解決的な活動ができたことがよかった。

○授業後、児童は、「みんなで使う場所」をどのように使ったらよいか判断し、後に使う人のことを考えたり、汚れている場所を自分からきれいにしたりする行動が多く見られ、道徳的判断力、実践力を促すことができた。

●ひろ子の行動に伴う気持ちはフローチャート、役割演技等で触れているので、資料後半を読んだあとの発問は吟味する必要があった。「にっこり笑ったひろ子」に焦点をあてるとよかった。

●後段の日常生活の振り返りの場面では、写真を見てどうすればよいのか考えさせたが、ひろ子のような行動をしている児童の写真だけで充分だった。押しつけにならないようにする必要がある。



<平成28年度>

第6学年1組 道徳学習指導案

1 主題名 思いやりの心の尊さ (内容項目番号 高学年B-(7) 親切, 思いやり)

2 資料名 席をゆずらなかった若者 出典 ブログ らくだのひとりごと一部改作

3 指導観 (仮説とのかかわり)

価値に迫るため、児童のこれまでの見方や考え方を揺さぶり、改めて思いやりのある行為とは何かを考えさせることができる資料を選択した。導入では、問題場面の絵を見せることで興味・関心を高めさせていく。

展開前段では、「心のものさし」にネームプレートを貼り、自分の立場を明らかにすることで、児童の価値観を揺さぶり、話合いにつなげていきたいと考える。また、動作化を用いることで、相手の思いや気持ちを共感させ、話合いをしやすくさせていきたいと考える。若者とお年寄りの気持ちの度合いを表した「心のバロメーター」を机に置くことで、互いの立場が見えるようになり、立場を見据えた話合いが活発になると考える。

展開後段では、これらの話合いを受けて、改めて思いやりとは何かについて考えさせる。「両者に足りなかったものは何か」について考えさせることで、相手のことを考えたちょっとした言い方や態度によって相手を温かくさせるということについて考えを深めさせたい。

終末では、「わたしたちの道徳」から、自分自身の人とかかわり方を振り返り、思いやりについて考えられるようにする。

4 本時の指導

(1) ねらい

若者がとった行動を通して思いやりについて考え、互いに思いやりの気持ちで接していくことの大切さを感じ取り、実践への意欲を育てる。

(2) 授業の実際 (話合い活動場面)

教師の発問と児童の反応	指導上の留意点
T 今の話を聞いて、若者と高齢者、どちらを支持しますか？	・心のバロメーターを用い、どちらかを選んで黒板に示すことで立場を明らかにさせる。 ・支持する数が少数であっても、不安にさせず、話合いによって変えてもよいことを伝える。
T 心のバロメーターで表してみましよう。 ワークシートに理由も書いてみましよう。 手元にあるバロメーターでも表しましよう。 名札で黒板に自分の位置を表しましよう。	
T 高齢者の人から聞いてみましよう。	
C 若者がいくらこれから会社でも若者のほうが体力があるし、遊びでも疲れているから座らせてあげた方がいい。	
C 高齢者の方がハイキングで疲れているから。	
T 次は、中間の人の意見どうですか。	

C 高齢者の意見ももつともだと思いが若者の言っている遊びで疲れている意見も分かる。僕は真ん中より少し高齢者寄りの意見です。

C 高齢者にゆずらなかつた若者も悪いが高齢者の言葉も悪くゆずりたくなってしまう。

T 最後に、若者支持の人に聞いてみましょう。

C 若者が最後に言ったシルバーシートと言ったが、電車は優先席があり、若者の言葉も悪いが優先席があるのでそちらに座った方がよい。

T 実際にこのシチュエーションをやってみましょう。両方の立場の気持ちを分かるためにやるので若者の気持ちも分かるように見てみよう。
(台詞を読みながら、動作化を実施)

T やってみてどんな気持ちだった？

C 申し訳ないという感じがした。

C でも、ふてぶてしく言われるとむかつく。

C スバツと言われて、心苦しかった。

C 若者の様子を周りの人も見ている。はずかしい。

T 若者の行動をどう思う？考えたことを書いてみよう。書きながら、考えが変わったら心のバロメーターを変えてもいいよ。変わったところに赤で線を引こう。

T 書いたことを発表しよう。

C 若者は、言い方が悪かったと思う。「空いている席に行ったらどうですか？無かったらゆずります。」という言い方をしたらよかった。

C ぼくは、「シルバーシートにいけよ。」というのはちょっと悪いと思うけど、若者に賛成。

C 若者の意見もわかるけど、強く言いすぎる。高齢者の意見も聞いた方がよいと思う。

T 両者に足りなかつたものは何だろう？

C お互いの気持ちを考えないで発言している。言葉遣いも悪い。

C 相手の気持ちを考えていない。「自分だけがよい」と考えていたところ。

C 若者は優しく。高齢者は、悪口より正々堂々とお願ひすればよかった。

C 相手の気持ちを考えることが大事。人間は平等だから、どちらがえらいと言うことはない。

・代表の児童が高齢者と若者の動作化をし、互いの気持ちや見方を考えられるようにする。
(若者役児童2名 高齢者役児童3名を指名)

・演じた児童だけでなく見ている児童がどう思ったかについてもたくさん意見交換させる。

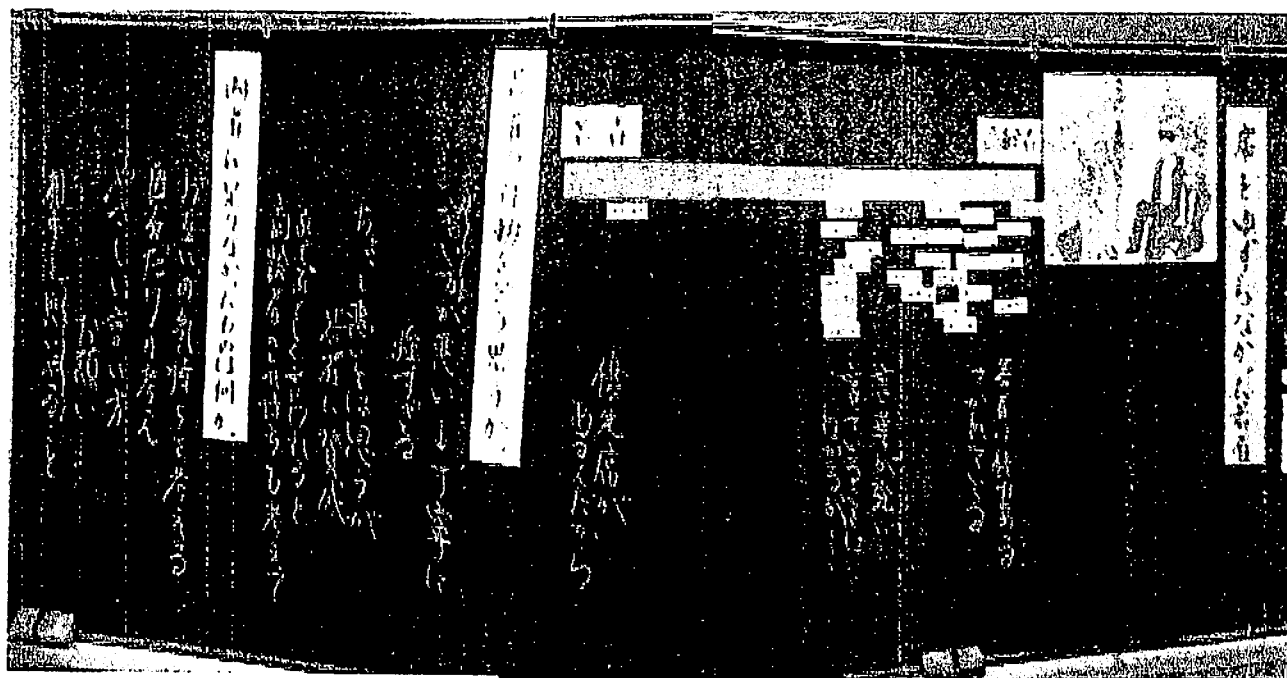
・高齢者には席をゆずらなければいけないという一方的な見方、考え方ではなく、それぞれの事情や気持ちが考えられるようにする。

・若者に迷いはなかつたか補助発問を入れることで葛藤を想像させる。

・いろいろな意見を出させ、自分と友達の考えの違いを比べながら、思いやりの気持ちを考えさせる。

・思いやりのある言い方や態度が、席をゆずる行為に大きな影響を及ぼすことに気付かせる。

5 板書



6 児童の振り返り

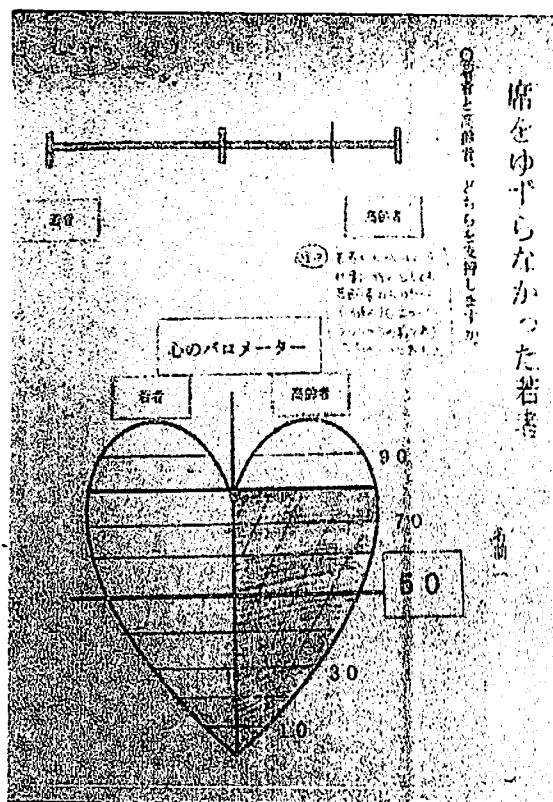
- ・どちらも立場を考えて発言していくとよいことがわかりました。言われて自分が傷つく言葉は言わないようにしようと思いました。そうすれば、もっと仲良くなると思いました。
- ・自分がよければいいと思うのではなく、相手の気持ちを考えて言葉を発するほうが良いことがわかりました。やさしい言い方で話をしたいと思いました。
- ・言葉は人の心に後を残すと思うと、言葉遣いは大事だと思います。
- ・今日の学習を振り返って、言い方でいろいろなことが変わることがわかりました。
- ・相手の気持ちを考えて行動するのは、とても大切だと思います。これからこの話のようなことがあったら進んで行いたいと思います。
- ・相手のことをどちらとも自分と置き換えていやじゃないかを考えることが大事だと思います。私も人のことをもっと思いやれるようになりたいです。
- ・思いやり、温かい心を持つことが大切だと思います。
- ・いつも自分は座ってばかりだったり、席をゆずってもらったりする立場だったので、自分も人に優しくする立場になろうと思いました。

7 成果と課題

○思考ツール「心のバロメーター」の活用について

心のものさしにネームプレートを貼り、自分の立場を明らかにした上で、個々に「心のバロメーター」で立場の気持ちの割合を示し、相手にも見えるようにすることで、自分と相手との考えの違いを知り、話し合いをすることができた。話し合いも、子供同士がそれぞれの立場を分かった上で行えたので、意見をつなげて意見交換をすることができた。

展開後段では、話し合いの後に再度考え直す時間をとり、心のバロメーターに色を変えて塗り直すことで、児童の心の変容を見ることができた。



○役割の動作化について

若者役や高齢者役の動作化を真剣に取り組ませたことで、お互いの気持ちを考えさせることができた。また、演技者を選ぶ上で、支持した役割と逆の児童を選び、演じさせたことで、反対の立場の人の気持ちを考えることができたようである。動作かをしていない児童でも、事前に見る視点を与えたことにより、自分のことのようにとらえ、二者の立場や気持ちを考えることができた。動作化したことで、本音の部分での子供の思いが引き出され、主題の「思いやり」というねらいに迫ることができた。



8 ワークシート

○両者に足りなかったものは何だと思えますか。

○若者の行動をどう思いますか。

○若者と高齢者、どちらを支持しますか。

私だったら

心のバロメーター

名前 ()

資料のあらすじ

男性1人女性2人のハイキング帰りらしい高齢者が電車に乗り込み、席が空いてなかったで立っていた。彼らの目の前には若者2人と50代くらいの女性が座っている。高齢者の男性が「最近の若者は年寄りを立たせていても平気なんだから。」などと、かなり大きな声で話している。若者が「山は歩けるのに電車では立てないの？遊んできたんだろ？こっちはこれから仕事に行くところなんだよ。とにかく座りたかったら優先席へ行けよ。」と言うと、3人の高齢者は凍り付いたように黙りこくりに、次の駅で降りた。

1 主題名 真の共生社会の実現のために（内容項目番号C-（13）公正，公平，社会正義）

2 教材名 「パラリンピアンの思い」

出典 大学教育出版 千葉祇暉著『立てないけど、立ち上がれー目指せ！車いすのオピニオンリーダー』

3 教材について

教材は、車椅子陸上競技の選手として、パラリンピックなどの数々の世界大会で活躍された経験のある千葉祇暉氏の著書『立てないけど、立ち上がれー目指せ！車いすのオピニオンリーダー』から引用し、日本における障害者に対する理解や対応の問題点について提示している。海外へ行く機会も多い著者は、日本と海外との違いについても問題視している。例えば、ノーバリア化の進んだ施設面等のハード面、障害者に対して気さくに話しかけ助けてくれる等の人々の内面に関わるソフト面ともに、日本よりも進んでいるという認識をもっている。パラリンピアンも「アスリート」として接し、パラリンピック大会における観客数も多く、オリンピックに負けない大歓声の中行われるそうである。

2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが行われ、海外から多くの選手や観客が訪れる。また、今年4月から「障害者差別解消法」が施行された。これを機会に、日本人の障害者に対する人権意識を向上させていかなければならない。

このような現状を踏まえ、長い間車椅子生活を送り、海外での経験も踏まえた千葉氏による問題提起は、現在の日本の抱える課題と一致しており、子ども達にも考え、議論するに値する課題であると考えられる。

教材をもとに、海外での様子と日本の様子を比較する中で、障害者に対する理解や対応についての日本の問題点を明らかにし、問題解決的な学習の中で、自分達にできることを考え、議論していく。それを通じて、障害者に対する差別や偏見をなくし、真の意味での共生社会の実現に向けてどんな意識をもって、何ができるかを考えながら行動できる人に育てていきたいと考える。

4 指導観（仮説との関わり）

<仮説>

価値に迫る教材を活用し、話し合いを充実させる手立てを取り入れることで、道徳性が養われ、相手の立場に立って感じ・考え・行動できる子どもが育つであろう。

価値に迫っていくために、差別や偏見に対して、子ども達の問題意識が高く、社会的にも問題となっている「障害者に対する差別や偏見」について考えていくことができる教材を選択した。長い間、車椅子生活を送る千葉祇暉氏の経験をもとにした、実際にあった話や海外と日本との違いについての話を知ることで、障害者の目線に立って、物事を捉え、さらに日本の課題について、課題意識をもつことができるような資料を用意した。教材では、障害者に対する行動や施設の利用の仕方、

海外と日本との経験から考える障害者への見方・考え方の違いに目を向けられる様、焦点化し、提示していく。

導入では、実態調査の結果を活用し、現代の社会が「障害者や高齢者にとって暮らしやすい社会になっていると思うか。」についての意見交換を行う。「どんなところが暮らしやすい社会になっているか。」「どうして、どちらともいえないと思うのか。」「なぜなっていないと思うのか。」等問いかけながら、学習の方向づけを行っていく。では、実際に車椅子で生活している方はどう感じているのだろうかとの投げかけ、教材の提示へとつなげていく。

展開前段では、教材を読み、感想を出し合う中で、問題点を明らかにしていきたい。その後、出てきた問題点について、考え・議論させていく中で、ねらいとする価値について迫っていきたい。児童の中から課題として、「障害者に対する認識や行動をよりよくしていくためには、どうすればよいのだろうか。」や「障害者が暮らしやすい社会にするためには、どのようにしていけばよいのだろうか。」等が挙げられると考える。複数の課題を、同時に考えていくことは困難であるため、課題を「障害者が暮らしやすい社会にするためには、どうしたらいいだろうか。」という大きな枠として設定し、解決策を考えさせていきたい。まず、個人でワークシートに記入しながら考えさせていく。この時に、思考ツールとしてウェブイングマップやピラミッドチャート等を活用させ、自分の考えやその理由を明らかにさせていく。その後、4人のグループの中で、それぞれの考えや理由を話し合わせていく。小グループでの話し合いの中で、全員が発言する機会を確保したい。その後、全体での話し合いを行い、様々な視点からの考えを引き出していく。また、板書を整理することで視覚的にも分かりやすくなる工夫をしていきたい。

展開後段では、自分にできることを考えさせていく。まずは、自分自身の見方や考え方、行動が変わることが大切であることに気付かせ、今後の生活の中での見方や考え方、行動が変わっていきよう、自らのあり方を考えさせていきたい。

終末では、教材の著者である、元パラリンピアンである現在、日本チャレンジドアスリート協会会長の千葉祇暉氏と元パラリンピアンである現在アンプティサッカー日本代表候補の古城暁博氏にゲストティーチャーとしてお話を頂く。千葉氏には、子ども達の話合いを聴いて頂いての感想を踏まえ、今後の日本社会への思いを語って頂く。古城氏には、現在も障害者スポーツの選手としてご活躍されている現状を踏まえ、今後の思いを語って頂く。どちらの言葉も、障害をもち、様々な苦勞を乗り越えながらも、社会のために活動している当事者の言葉であり、子ども達にとって重みのあるものとなるだろう。また、実際に障害をもつ人と関わり、話を聴くことによって、障害をより身近に感じることができると考える。

5 本時の指導

(1) ねらい

教材を通じて、日本における障害者への見方や考え方、行動に対する問題意識をもち、解決策を話し合うことによって、差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平に接することの大切さを理解し、進んで共生社会の実現に努めようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	・支援及び指導上の留意点 ☆評価 (方法)	資料
導入	3	<p>1 障害者や高齢者にとって暮らしやすい社会になっていると思うか、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ところどころにスロープがあるからなっていると思う。 ・便利になっているところとなっていないところがあるから、どちらともいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体としての結果を、グラフ等を用いて分かりやすく提示する。 ・実際に車椅子で生活している方はどのように感じているのだろうと投げかけ、資料の提示へとつなげていく。 	アンケート結果
展開	前段	<p>8</p> <p>2 教材を読み、感想を出し合う中で、解決すべき課題を見つける。</p> <p>○教材を読み、どんな感想をもったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者のことを考えていない行動をとる人がいるのはひどい。 ・障害者がそのような感情を抱いているとは知らなかった。 ・障害者の視点でものが作られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料と出来事を短く書いた短冊を用意し、提示しながら読み進めていくことで、話の内容を理解しやすくする。 ・まず、感想を自由に話し合う中で、課題を見つけさせていく。 ・課題については、様々な視点から意見が出されると予想する。多くの意見を引き出し、それらを括る大きな視点での課題を設定し、その後の話し合いへとつなげていく。 	読み物資料 写真資料 短冊 ワークシート
		<p>2</p> <p>○何が日本の課題だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対する見方や考え方、行動をよりよくしていくためには、どうすればよいのだろう。 ・障害者が暮らしやすい社会にするためには、どのようにしていけばよいだろうか。 		
	15	<p>3 解決策を考え、議論する。</p> <p>◎障害者が暮らしやすい社会にするためには、どうしたらいいだろうか。</p> <p><施設面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者に意見を聞いてユニバーサ 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、ワークシートを用いて、個人の考えをまとめていく。この時に、ウェビングマップやピラミッドチャート等の思考ツールを活用させ、整理させていく。 ・次に、4人組での小グループでの 	ワークシート

		<p>ルデザインの物や施設を作り、バリアフリー化をより一層進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ人も、生活を楽しめるように、様々な工夫をしていく。 <p><精神面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対して、「障害をもってから仕方がない」とか、「障害をもっているから無理」などという差別や偏見をもたない。 ・一人一人が、障害者とともに一緒に助け合って生活していくという思いをもつ。 ・障害者の思いを理解し、何ができるかを考えていく。 ・一番大切なのは、寄り添う気持ちをもつことではないか。 	<p>意見の交流をさせる。ここでは、考えの吟味をしたり、まとめたりはさせず、全員が自分の考えを相手に伝える交流の場とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体での話合いでは、意図的な指名と指名なし発言を効果的に使い、意見をつなげながらも、多様な意見を引き出していく。具体的には、話題を変える際には、意図的指名を行い、似た意見をつなげていく際には指名なし発言で進めていく。 ・出てきた意見に共通する点を話合うことでねらいとする価値に迫っていく。 <p>☆差別や偏見をもたず、共生社会を実現していこうとする態度をもつことができたか。</p> <p>(ワークシート・発表)</p>	
後段	5	<p>4 話し合ったことをもとに、自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、自分自身が障害に対する偏見をなくしていきたい。 ・障害者に出会った時に、何か手伝えることはないか積極的に尋ねていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、自分自身の見方や考え、行動が変わることが大切であることに気付かせていく。 	ワークシート
終末	1 2	<p>5 ゲストティーチャーの話をお聞き、今日の授業で学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ人達の思いをもっと理解し、互いに助け合っていける共生社会を実現させていきたい。 ・障害をもつ人を身近に感じる事ができた。自分にできることを考え、行動していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもちながらも乗り越え、現在も社会のために活動されているお二人の話をお聞きすることで、障害を身近に感じさせると共に、障害者との共生社会の実現に向けての思いを改めてもたせる。 	

障害者の暮らしやすい社会にする
 ためには、どうしたらいいだろうか

ウエビングマップ (Web Map)

ピラミッドチャート (Pyramid Chart)

旅次面

心の面

便利なもの
 車椅子

楽に使える
 ように
 会場になる

障害者と大きく
 異なる

当番者の声を聴く

理解を深く
 持つ

大変な
 苦しみや不安を抱
 えている

差別をなくす
 平等な社会
 偏見をなくす
 しっかりと接する

周りの人が
 気づく
 席をゆする
 やさしく声をかける

TOKYO 2020
 TOKYO 2020

2020年
 東京オリンピック
 ・パラリンピック

古城院博さん

自分にくること

正しい知識を共に持つ
 自分たちから調べる、関わる
 平等な、立場を考慮する、進んで
 関係性、できること、体験
 千葉えんり

でも、も、健常者、障害者に分けず
 があるのか
 (共に) ゆるりなう
 古城えんり

電車の中で
 目標まで
 フラッシュ
 痛がる

パラリンピアンへの思い (自作教材)

① 車いすで道をうろついていると、すれ違う方に「お大事に」と言われることが多いです。どうやらこの国では、障がい者は病人だと思われているのか、それとも「優しさ」から何と言葉をかけてよいか、わからないからでしょうか。また、パラリンピアンでは、気軽に、気さくに話しかけてくれる方が多いです。また、パラリンピアンを「アスリート」として、歓迎してくれます。

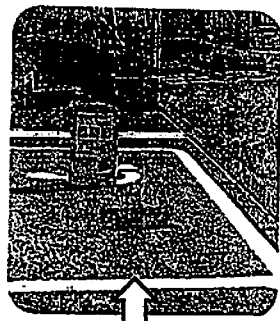
② エレベーターを待っているとドアが開き、乗っている人は待っている私と視線を合わせず下を向いて、ただドアが閉まるのをじっと待っています。この一瞬、お互いになんとなく気まずい雰囲気になります。

【海外にいくと、車椅子の方にスペースを譲ることが当たり前になっている国が多いです。車椅子の方は、階段やエスカレーターを使用できず、エレベーターしか使用できないということへの理解が、こうした行動につながっているのではないのでしょうか。】

③ 障がい者用パーキングに停めていた高級車に近づいたら、タイヤを鳴らして急発進。咄囃にドライバーは「あっ」と思って移動したのでしょうか。しかし私を見て動かしなという事は、自分が停めている場所の意味を知っている証拠ではないでしょうか。おそらく、ここに停めた理由は「ここに停めていても障がい者は来ないだろう」ともしくは「ちよっとの間だけだからいいよね」という感じですかね。でもこのスペースは空けておくものではないでしょうか。このスペースしか停められない方たちのために。

④ バリアフリールームがあるからと、ホテルのその部屋に泊まったら、かえって使い辛かったです。【例えば、この写真を見てください。手すりがついていて、一見使いやすいように見えますよね。しかし、車椅子から手すりをつかんで、便座にのろろとすると、この距離では、手すりが遠く、つかめません。一体、誰が作ったのだからね。】

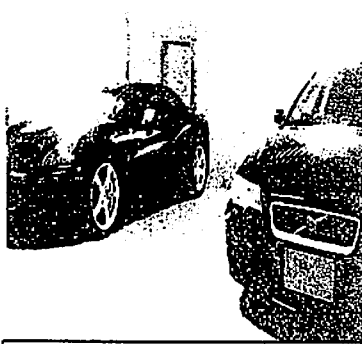
さて、千葉さんの体験から、いくつかの例を挙げましたが、どうでしたか。障がい者の方が、暮らしやすい社会になっていてほしいですか。



これらの写真の意味、分かりますか？



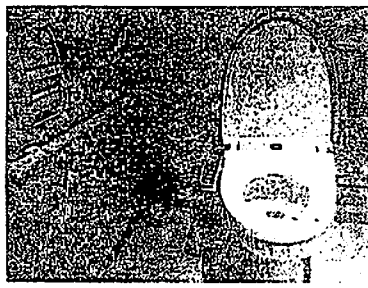
このボタンはだれのためにあって、だれが押するのでしょうか？ 盲人には見えない案内板



障がい者用パーキングの使い方

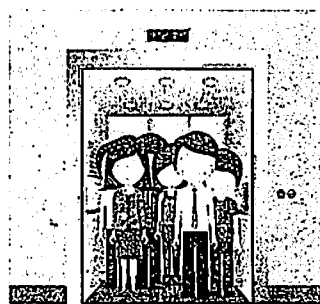


「お大事に。」…？



便座と左の手すりが定くて、便座右からの移動時、手すりに手が届かないパターン

かえって使いづらい



視線を合わせず、下を向く。



車イス陸上競技
元パラリンピック選手
(パラリンピアン)